

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミが媒介するウイルス病対策（技術情報第10号）について（送付）このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

今作は、施設栽培の野菜類において、トマト黄化葉巻病等の虫媒伝染性ウイルス病が多発生しています。また、媒介虫であるタバココナジラミも施設内で確認されています。そこで、暖くなる前から本虫の防除を徹底し、春先以降に施設内からウイルス（保毒虫）を野外に出さないようにしましょう。

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスであるトマト黄化葉巻ウイルス（以下、TYLCV）、キュウリ・メロン退緑黄化病やスイカ退緑えそ病の病原ウイルスであるウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）などのウイルスを媒介する。

本虫は、厳寒期には野外からの侵入はないが、施設内で越冬している個体は気温が高くなり始めると増殖し、防除が困難となる。さらに、ウイルス病発病株がある施設では、ウイルスを保毒した個体（以下、保毒虫）が増え、野外へ飛び出すと、周辺ほ場でのウイルス病発生の原因となる。

1 発生状況等

- (1) 1月の巡回調査における発病株率は、トマト黄化葉巻病が1.0%（平年0.1%）、キュウリ退緑黄化病が10.4%（平年2.3%）でいずれも平年比多の発生であった（図1、2）。
- (2) 1月の巡回調査におけるタバココナジラミの寄生葉率は、トマトが0.9%（平年0.3%）で平年比やや多、キュウリが0.8%（平年2.0%）で平年比やや少の発生であった（図3、4）。
- (3) 福岡管区气象台が1月25日に発表した向こう3ヶ月の予報は、気温が平年並の予想である。

2 防除対策

上記の発生状況等を踏まえ、地域におけるウイルス病の発生拡大を防ぐため、暖くなる前から以下の対策を行う。

- (1) 保毒虫を施設内で「増やさない」対策（2月まで）
 - 1) 施設内に粘着トラップを設置し、本虫の密度を低下させる。
 - 2) コナジラミ類の発生がみられるほ場では、継続した防除を行う。
 - 3) トマト黄化葉巻病抵抗性品種であっても、TYLCVに感染し伝染源となるため、本虫の防除を行う。
 - 4) ウリ類の連続栽培を行う場合には、保毒虫を次作に持ち越さないように防除を行う。

(2) 保毒虫を施設外に「出さない」対策（3月以降）

- 1) 定期的に施設周辺を見回り、ハウスビニルや防虫ネットに破れが無い点検し、必要に応じて修繕を行う。
- 2) 成虫に効果の高い剤を主体とした薬剤防除を行う。
- 3) 本虫の施設外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は必ずハウスを密閉してから一斉に植物を枯らす。
- 4) 地域で取り決めた密閉処理期間を遵守し、本虫含む微小害虫及びウイルスを完全に死滅させる。
- 5) 施設内の片付けは、密閉処理が終了してから行う。

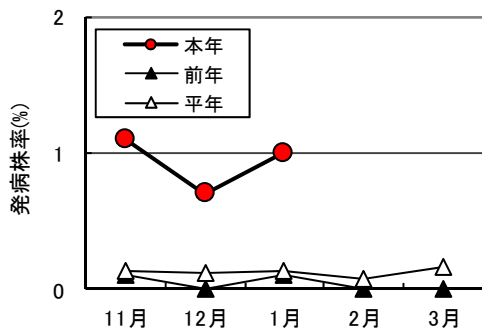


図1 トマト黄化葉巻病の発病株率の推移

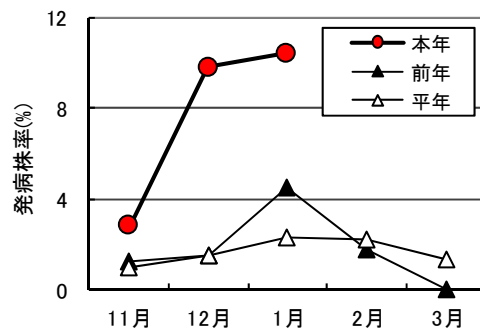


図2 キュウリ退緑黄化病の発病株率の推移

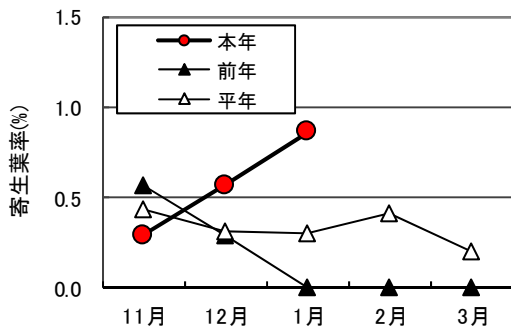


図3 タバコナジラミの寄生葉率の推移(トマト)

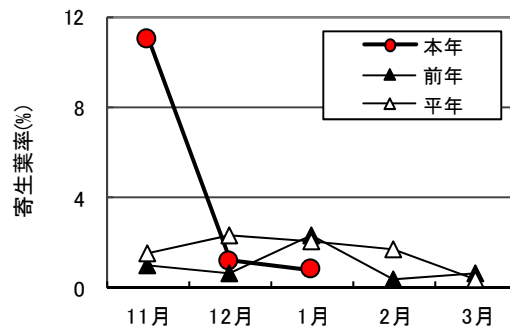


図4 タバコナジラミの寄生葉率の推移(キュウリ)

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当：児玉 TEL 096-248-6490